

〈頓宮美津子〉

〈がん対策について〉

**問** 子宮頸がんは、予防できるがんにもかかわらず、毎年1万5000人が発症し、約3500人が死亡している。また、近年特に若い世代の増加がみられることから、公費でのワクチン接種が開始されたが、本市での通知方法と接種率はどうか。また、未接種者対策はどうか。

**答** 個別に通知し、検診の重要性と将来の検診の必要性も周知している。接種率は約75%。未接種者に対しては再度通知している。(以下市長)

**問** ワクチン接種は国は定期接種を検討中だが、国の助成がなくなっても実施するか。

**答** 子どもの命を守るために実施してまいりたい。

**問** 子宮頸がんも、早期発見によって、将来妊娠・出産が可能になる。無料クーポン券

も配布されているが接種率はどうか。

**答** 約18%にとどまり、接種率を上げてまいりたい。

**問** 近年、がんになる前の早期に発見でき、毎年の検診が3年に延長、更に経費削減につながるHPV検査が開発された。救える命を守るためにも、これまでの

**問** 将来的には何らかの特例措置を考える。

**答** 将来的には何らかの特例措置を考える。(市長)

**問** 井笠バスの廃止に伴い、真備地区の方から、雪舟くん方式のことを聞かれる。相互乗り入れ等を踏まえ、倉敷市と協力できないのか。

**答** 倉敷市と言わず、近隣に雪舟くん方式ができれば、協力は行い、進化する雪舟くんにしたい。(市長)

検診に加え併用を早期に導入する考えはないか。

**答** 助成ばかりしても市民のためにならないと思う。



子宮頸がんワクチン接種の啓発ポスター

救急について

**問** 現場から搬送までに、時間がかかるときの原因は何か。

**答** 搬送先や症状に応じ先生の指示を聞くため、処置に時間がかかっている。(以下消防長)

**問** 道路状況に応じた救急車の購入はできないか。

**答** 車幅が広い高規格車の入らない路地が多い昭和地区には一般規格車を購入する。



進化が求められる雪舟くんシステム

〈赤澤康宏〉

〈雪舟くんについて〉

**問** 土・日運行の意見があるが、運行できない理由は何か。

**答** タクシー会社に影響を及ぼすから、土日運行は考えていない。(市長)

**問** 現在、市の直営であるが、他の事業者(社協・商工会等)の考えはないか。

**答** 今のところ他の事業者は手を上げない。(市長)

〈多田英章〉

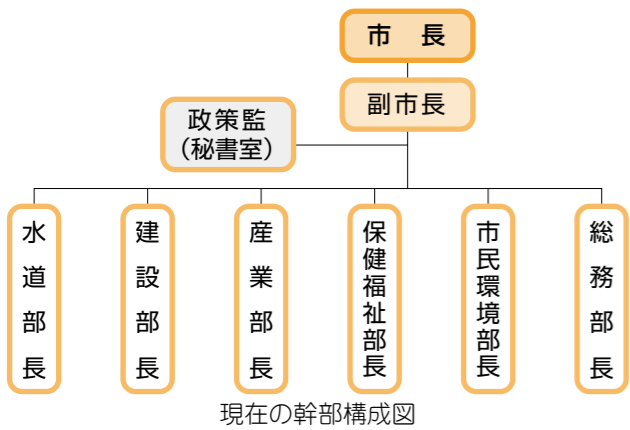
美袋駅前の整備事業について

**問** 消防署昭和出張所完成及び業務の開始時期はいつか。

**答** 移転新築をして、平成26年4月に業務を開始する。(以下市長)

**問** 昭和出張所の今後のあり方はどうか。

**答** 県道美袋停車場線の早期拡幅工事を進めるためにも、



現在の幹部構成図

〈西森頼夫〉

政策監ポストについて

**問** 政策監を配置して何年か。

**答** 平成20年4月1日から5年近くになる。(市長)

**問** 片岡市長は長い間総社市を離れていたため、就任時には、市内の状況や職員も市の機構も熟知していない。副市長は国土交通省から引き、政策監の配置も当然必要だった。しかし、今は市長も副市長も

ち早く取り組まれたが、その成果はどうか。

**答** ハローワークと一体となつて就労支援活動を行い、主に身体障がい者やブラジル人など、多くの方が就職して成果を上げている。

**問** 扶助費の半分を占める医療費に対してどのように対応していくのか。

**答** ジェネリック医薬品の利用促進を図る。また、重複診療のないよう努めていく。

全てを知り尽くしている。配置すべきではない。

**答** 政策の立案、内部調整の仕事をしてもらう。(市長)

**問** 政策の立案は企画課がすべき。内部調整は副市長の仕事。助役制度があった時は助役がしていた。優秀な人材を置くのはもったいない。

**答** 副市長は政務に徹し、政策監は事務次官か官房長のよきな事務をしてもらう。(市長)



昭和出張所(写真手前)と昭和公民館(奥)

**問** 竹内市長当時の秘書係は何人だったのか。現在、秘書室には何人いるのか。

**答** 当時は3人、現在は7人いる。(政策監)

**問** 秘書の人数は多すぎるともかわらず残業に追われている。市長の思いつきが多くて、雑務に追われているのではないか。原因はどこにあると考えているのか。

**答** 仕事量についてはよく考えたい。(市長)